

分野：観光、国際、地域

## タイトル 国際、観光、地域、歴史、東西文化交流

安田震一 多摩大学グローバルスタディーズ学部 教授

多摩大学教員サイト URL

[https://www.tama.ac.jp/guide/teacher/William\\_SHANG.html](https://www.tama.ac.jp/guide/teacher/William_SHANG.html)

キーワード

絵画、視覚化資料、歴史、アートと歴史、陶磁器

### 概要

担当教員の専門分野は18世紀から20世紀初頭のアートを通してアジア地域史を検証すること。要するに文献だけに頼らず異なった角度から歴史を検証すること。水彩画、油彩画、スケッチ画などの絵画作品（視覚化された資料）および陶磁器に施された絵柄から何が見える・読み取れるのか。それは、ある地域の社会、人と人とのつながり、対立、生き様などが検証できる。

東西文化交流に関しては貿易品、とりわけ中国や日本からの商品を運んだ帆船や高速帆船、その後は蒸気船など、アジアからヨーロッパへと運ばれた品々の年代が特定でき当時のトレンドを理解できる。また、輸送日数によってヨーロッパ到着時での味覚が異なることは理解できよう。さらに積み荷に関しては高価な絹製品を守るために船底に陶磁器を積み込み、その上に絹製品を積むことによって塩水につかることを防ぐなど、当時の知恵が見え隠れする。

アジアとヨーロッパとの外交・貿易関係なども美術品から理解できる。その良い例が、19世紀末期から政治的、経済的、外交面においても著しく衰退する清国（中国）ではあったが、美術品は今まで通り一流とされていた。そのため、多くの美術品が戦利品としてヨーロッパおよび米国に持ち帰られる、盗品として密輸されることも多々あった。

### 利用・用途

#### 応用分野

歴史的な知識を習得することによって今日が理解できる。現在を理解することによって未来の展開を予想することができる。全く同様になるとは言わずとも、学術的な理解の上に将来を予知することは重要である。とすると、観光、貿易、移動と交流など様々な文化に活かせる知識であることは間違いないであろう。歴史認識を様々な分野で生かすノウハウを知ることは重要である。

### 関連論文・著書

- 1) 「十八世紀～十九世紀中国の秩序—装飾美術品からの考察」岩下哲典編集『東アジアの秩序を考える—歴史・経済・言語—』、春風社、横浜、2017年12月24日、pp. 21-64。
- 2) “Ukiyo-e Museum Opens in Fujisawa”, Arts of Asia, Vol. 48, No. 5, September-October, 2018, pp. 127-135.
- 3) 「18～19世紀中国絵画にみる権力の象徴—西洋的な視座から」、岩下哲典編集『東アジアの弾圧・抑圧を考える—19世紀から現代まで 日本・中国・台湾』、春風社、横浜、2019年12月31日、p. 291-330。
- 4) 研究発表「藤澤浮世絵館と江の島浮世絵—地域文化のグローバルリズムと継承」、藤澤浮世絵館、2021年8月7日（土）

多摩大学 学長室  
206-0022 東京都 多摩市聖ヶ丘4-1-1  
TEL:042-337-7300 FAX:042-337-7103  
E-Mail: [hisho@gr.tama.ac.jp](mailto:hisho@gr.tama.ac.jp)  
URL: <http://www.tama.ac.jp/>



TAMA UNIVERSITY  
多摩大学